

『子育て期における仕事と家庭の調和に関する調査』

－母親と女子高校生の就業意識－

文部科学省委託事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」プロジェクト

(代表 永瀬伸子)

調査の目的：小学生および高校生の子を持つ母親に対して、母親自身の希望した就業パターンと実際の就業パターン、母親が高校生の娘について考える理想の就業パターンと、娘である高校生自身が持っている仕事と家庭の見通しについて調査する。また合わせて女子高校生が仕事に関心を持つきっかけとなった女性モデルや、学校教育について尋ねる。

調査対象：都内小学校 2年生、5年生の母親

都内高等学校 1年生、2年生の母親と高校生本人

調査実施時期：平成22年1月

調査方法：学校を通じた配布、郵送による回収

回収率：小学生母（2年・5年）	252 配布	134 回収	回収率	53.2%
高校生母（1年・2年）	241 配布	161 回収	回収率	66.8%
高校生（1年・2年）	241 配布	158 回収	回収率	65.6%

I. 母親および娘向け調査結果

1. 調査票の回収について

母親向けの調査では、小学校、高校あわせて、493通を配布致し、その結果、295通のご回答を得、回収率は59.8%だった。高校生向けの調査では241通を配布し、158通のご回答をいただき、回収率は65.6%であった。

2. 回答者の年齢・家族構成・子ども数

平均年齢：小学生母 41歳、小学生父 43.3歳、高校生母 46.7歳、高校生父 49.1歳

家族構成：親と子どもの核家族が86.1%、三世代家族が13.9%。

子ども数：1人 21.8%、2人 58.1%、3人 17.0%、4人 3.1%

3. 母親調査結果

(1) 就業パターン

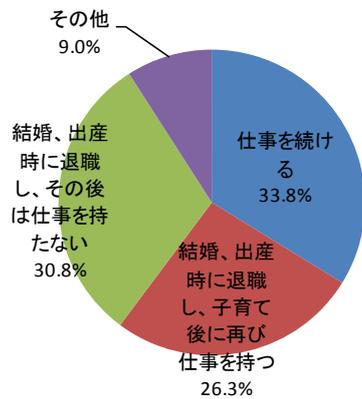
小学生の母と高校生の母に分けて、学卒時の希望の働き方、実際の就業パターン、母親が考える娘の理想の就業パターンをみた。

<小学生母>

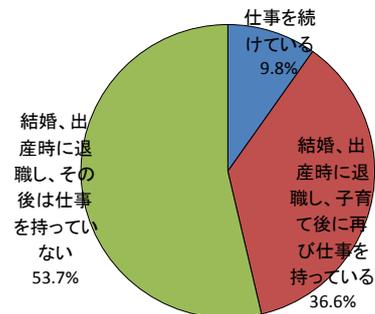
●母親は学卒時には、継続型希望者が最も多いが、実際には退職型、再就職型が多い

「あなたは学校を卒業して働き始めた頃、どのような働き方をしようと考えていましたか。」という問いに対し、「仕事を続ける」と回答した人の割合が最も高く 33.8%だった。しかし、実際には、出産前から現在まで仕事を続けている人は1割もいない。「結婚、出産時に退職し、その後は仕事を持っていない」人が半数以上である。

卒業時の希望の就業パターン(小学校)



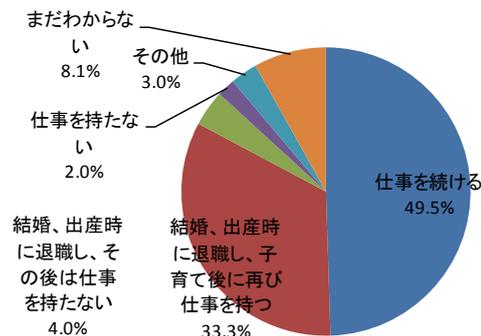
実際の就業パターン(小学校)



●娘の理想の就業パターンは継続型が約半数

「あなたは、あなたのお嬢様がどのような働き方をすることを理想と考えていますか」という問いに対し、半数近くが「仕事を続ける」と回答し、次いで「結婚、出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が 33.3%である（娘がいない人は除いている）。

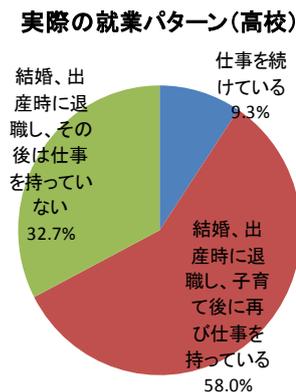
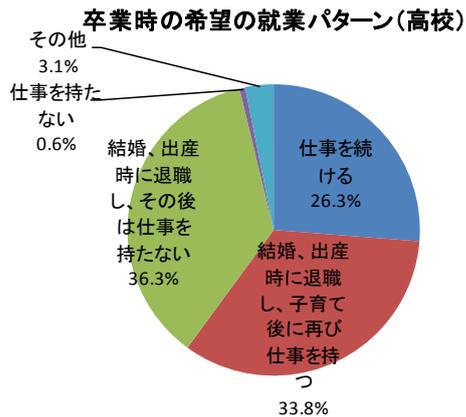
母が考える娘の理想の就業パターン(小学校)



<高校生母>

●母親は学卒時には、退職型が最も多いが、実際には再就職型が多い

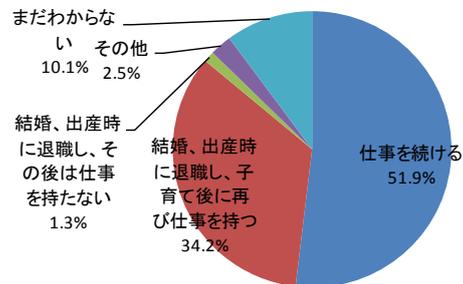
「あなたは学校を卒業して働き始めた頃、どのような働き方をしようと考えていましたか。」という問いに対し、「結婚・出産時に退職し、その後は仕事を持たない」と回答した人の割合が最も高く 36.3%、次いで「結婚・出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」と回答した人が 33.8%、「仕事を続ける」と回答した人が 26.3%である。しかし、実際には、「結婚・出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持っている」人が約6割だった。小学生の母親に比べると高校生の母親の多くが再就職を果たしている。



●娘の理想の就業パターンは継続型が約半数

「あなたは、あなたのお嬢様がどのような働き方をすることを理想と考えていますか」という問いに対し、約半数が「仕事を続ける」と回答し、次いで「結婚・出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が 34.2%であった。

母が考える娘の理想の就業パターン(高校)



<小学生・高校生母>

●理想を実現するために必要なもの

「お嬢様の働き方について理想を実現するためには何が重要だと思いますか」という問いに対し、「仕事を続ける」と回答した人の回答をいくつか紹介する。

<専門的な知識が必要だという意見>

- ・一生続けられる仕事をみつけること・資格を身につけて、子育て中も働きやすくする。
- ・勤務時間を自分で調整できる地位。資格。

<配偶者の協力が重要だという意見>

- ・協力し合えるパートナーと結婚すること。
- ・家事、育児を同等に分担する配偶者を持つこと。

<母親自身がサポートするという意見>

- ・娘が社会に役立つ責任ある仕事を持ち、続けたいと願うなら、全面的に協力してあげたいと思っている。

<保育環境の整備が必要だとする意見>

- ・保育園の数を増やす、時間を長くする、保育料を安くする。

- ・ 託児施設、サービスを多くの希望者が利用することができるように、もっと行政が制度改革をすること。保育士の方々の待遇も改善すること。
- ・ ベビーシッター代の税金からの控除

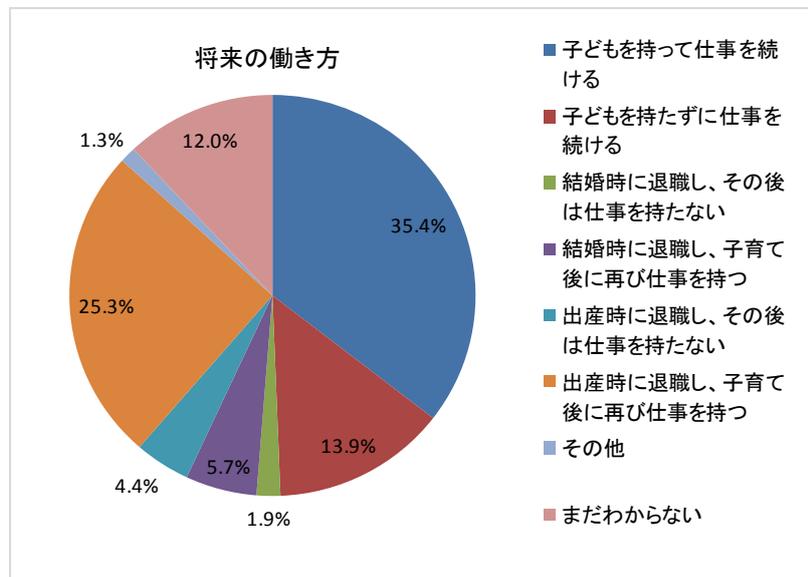
＜職場環境の整備＞

- ・ 勤務時間の短縮や在宅勤務などが、本人だけでなく配偶者にも認めてもらえること。そのような勤務先を選ぶこと。
- ・ 子どもの学校の用事や病気のときは仕事を休むことができるような職場の理解と体制。
- ・ 子育て時の就業時間の短縮(時間の融通がきく、在宅勤務が可能)
- ・ 会社においては男女とも自由にとれる「時間休」のシステム

(2) 高校生の就業意識

●将来の働き方

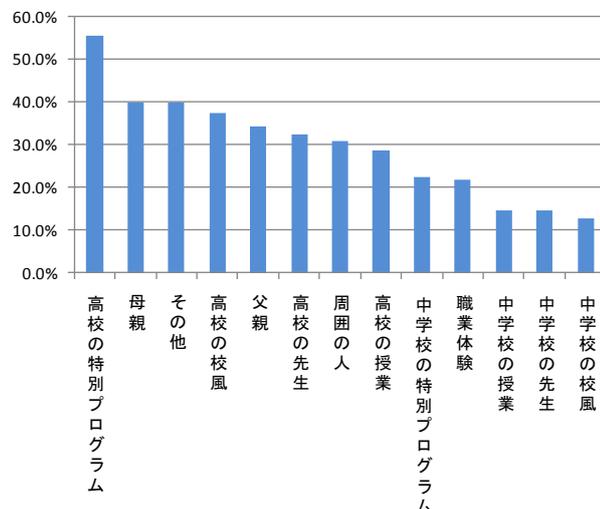
「あなたは、将来どのような働き方をしたいと考えていますか」の回答は、就業継続希望者が約半数を占め、これまで女性の働きかたと生活の理想とされてきた「結婚・出産で仕事を辞め、子育てが一段落したら仕事を再開」というライフコースよりも、「子どもを持って就業継続」の回答者が多かった。ただし「子どもを持って就業継続」は、小学校の母親の33.8%と比べてそれほど変わらないものの、「子どもを持たずに就業継続」が14%近くという結果は大きい変化だと思われる。



●就業意識を高めたもの

高校生が職業を持って働き続けようという意識を高めたと考えたものは何かを尋ねた。その結果は図の通り、一番「高めた」と回答したものが「高校の特別プログラム」(56%)、次に「母親」(40%)、「その他」(テレビ、雑誌など)(40%)「高校の校風」(37%)、「父親」(34%)「高校の先生」(33%)と続いている。

高校の特別プログラムの具体的な内容の記述の回答は41名あった。特別プログラムの具体的な内容の記述が多かったのが「卒業生の講演」で15名、以下「医学部の説明」2名、「キャリアガイダンス」「ジェンダー関係の



授業」各1名とあった。

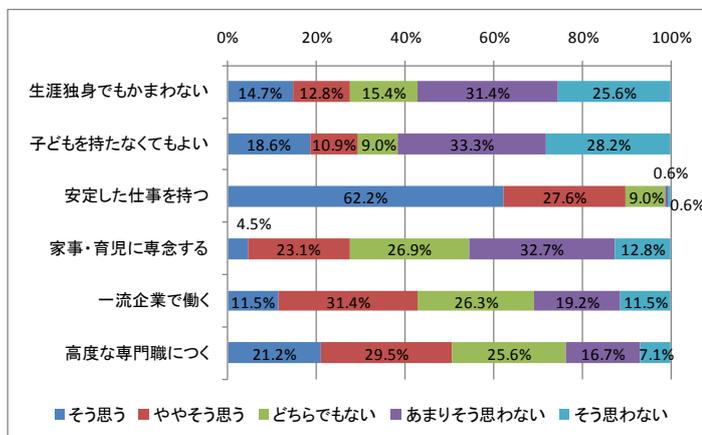
またどのように役立ったかの回答では「仕事に対してのやりがいやうかがえたから」と「仕事のやりがいや仕事に対する姿勢を学んだ」と答えた人が8名、「女性でも活躍している人はいるのだと実感」「女性でも活躍している方の話を聞いて意識が高まった」など仕事で活躍している女性を挙げている人が7名いた。以下「いろいろな職業があることを知った」という回答、「子育てと仕事の両立していることがわかった」「刺激を受けた」という内容の回答が続いている。

また2番目に挙げた「母親」という回答の自由記述には39名の回答があり、そのうち26名の回答が「働く母親をみて自分もそうになりたい」だった。記述内容から「働く母親」の職業内容や、仕事上の地位よりも、「自分を理解し励ましつつ、仕事を持って毎日働いてくれる」、「忙しくてもがんばっている」、「毎日充実している」というような母親の生活と仕事の充実を重視して見ており、それを肯定し、尊敬している意見が目立った。

●将来のライフスタイル

「生涯独身でもかまわない」、「子どもを持たなくてもよい」、という考え方には「そう思う」「ややそう思う」あわせてそれぞれ28%、30%で、賛成する回答は少なく、「家事・育児に専念する」というライフスタイルにも賛成する回答は「そう思う」「ややそう思う」あわせても28%だった。

どのような仕事につくかを考えているのは、近年の経済不況を反映しているのか「安定した仕事につく」、という回答に「そう思う」と「ややそう思う」をあわせて90%という回答だった。「一流企業で働くことを考える」は「そう思う」「ややそう思う」あわせて43%で、「高度な専門職につくことを考える」は51%だった。



(3) 母と娘の将来の働き方に対する意見の一致と相違

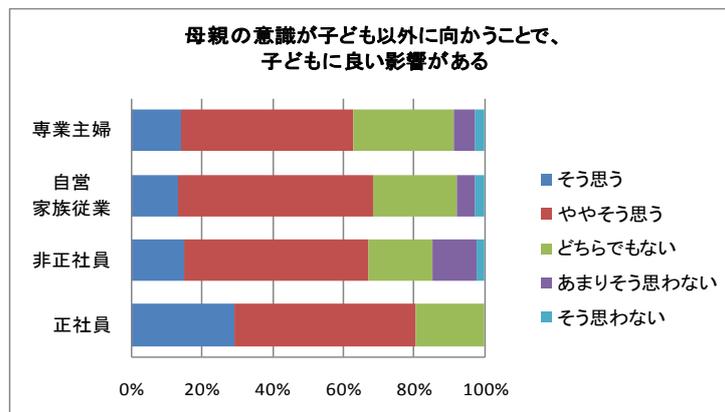
母親も娘も、ともに両立を理想とするのは回答者の4人に1人である。母か娘の一方は出産退職後の再就職を望んでいるが、他方が両立を望んでいたりと、娘は子どもを持たない就業継続を望むが、母は両立を望んでいたりと、ずれが見られた。

		母親が考える娘の理想の働き方						合計
		子どもを持って仕事を続ける	子どもを持たずに仕事を続ける	結婚、出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ	結婚、出産時に退職し、その後は仕事を持たない	その他	まだわからない	
娘が考える将来の働き方	子どもを持って仕事を続ける	24.5%	0.0%	8.4%	0.6%	0.6%	1.3%	35.5%
	子どもを持たずに仕事を続ける	7.7%	0.0%	4.5%	0.0%	0.6%	1.3%	14.2%
	結婚、出産時に退職し、子育て後に再び仕事を持つ	12.3%	0.6%	14.8%	0.0%	0.0%	3.2%	31.0%
	結婚、出産時に退職し、その後は仕事を持たない	1.3%	0.0%	3.2%	0.6%	0.0%	1.3%	6.5%
	その他	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.3%
	まだわからない	5.2%	0.0%	3.2%	0.0%	0.6%	2.6%	11.6%
	合計	51.0%	1.3%	34.2%	1.3%	2.6%	9.7%	100.0%

(4) 母親の意識

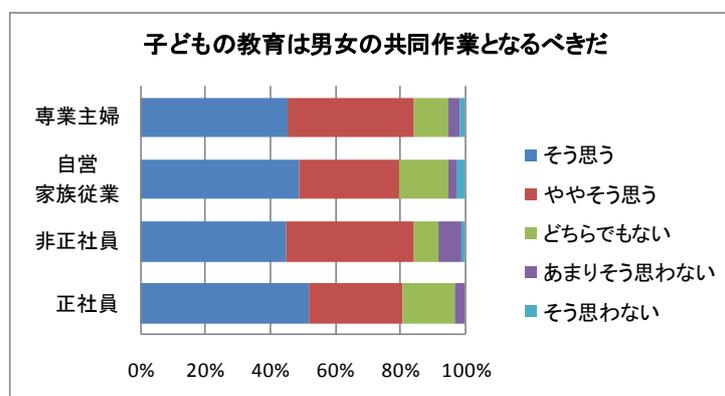
●「母親の意識が子ども以外に向かうことで、子どもに良い影響がある」

正社員の母親では80%が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、専業主婦・非正社員・自営家族従業では約6割～7割である。



●「子どもの教育は男女の共同作業となるべきである」

母親の仕事の有無とは関係なく、その考え方はほぼ同じである。子どもの教育に関して、母親だけではなく、父親の参加が必要であると考える方が80%前後で、父親の役割も重要と母親が考えていることがわかった。



本研究はお茶の水女子大学倫理委員会の承認を受け、調査票の回収は、個々人の自発的な郵送回収をお願いした。収集したデータ結果の収集したデータは、個人情報の取り扱いや保管など厳重に注意を払っている。